

平成31年度入学試験問題

総合問題

注意事項

1. この問題冊子は試験開始の合図があるまで開いてはいけません。
2. この冊子は全部で11ページあります。
3. **I** , **II** , **III** , **IV** の全4問に解答してください。
4. それぞれの問題について解答用紙が配布してあります。この他に下書用紙も配布してあります。解答用紙には受験番号を記入する欄がありますが、下書用紙にはありません。間違えないようにしてください。
5. 受験番号は解答用紙の指定された箇所に記入してください。決して氏名を書いてはいけません。
6. 試験終了後、解答用紙を回収します。問題冊子と下書用紙は持ち帰ってください。

I 次の A は、オックスフォード大学出版局の辞典部門「オックスフォード・ディクショナリーズ」が 2016 年 11 月に公開した「今年の言葉 (Word of the Year)」を  
発表する文章であり、 B は、 A の発表後に「今年の言葉」と関連づけて 2016  
年のアメリカ大統領選を解説するワシントン・ポスト紙の記事である。これら 2  
つの文章を読み、問 1～5 に答えなさい。なお、 A, B それぞれの後に語注  
がある。(配点 80 点)

A

"Word of the Year 2016 Is ..." *Oxford Dictionaries*, 2016. <https://en.oxforddictionaries.com/word-of-the-year/word-of-the-year-2016> より。ただし一部改変した。

#### 語注

denote 意味する。

spike 急増。

frequency 頻度。

referendum 国民投票。

peripheral 周辺のな。

mainstay 頼みの綱。

simmering 沸騰寸前の。

Brexit ブレグジット(英国のEUからの脱退)。

compound word 複合語。

prefix 接頭辞。

specified ある(特定の)。

irrelevant 重要でない。

Steve Tesich スティーヴ・テシック。セルビア系アメリカ人の劇作家・脚本家。

Iran-Contra scandal イラン・コントラ事件。アメリカのレーガン政権時代の政治スキャンダル。

Persian Gulf War 湾岸戦争。1990年8月イラクのクウェート侵攻に始まる、アメリカを中心とする多国籍軍とイラク軍との間で行われた戦争。

lament 悲嘆する。

transparent 平明な。

B

Ruth Marcus. "Welcome to the post-truth presidency." *The Washington Post*, December 2, 2016.  
[https://www.washingtonpost.com/opinions/welcome-to-the-post-truth-presidency/2016/12/02/baaf630a-b8cd-11e6-b994-f45a208f7a73\\_story.html](https://www.washingtonpost.com/opinions/welcome-to-the-post-truth-presidency/2016/12/02/baaf630a-b8cd-11e6-b994-f45a208f7a73_story.html) より抜粋。ただし一部改変した。

語注

assertion 断言, 主張.

Politico ポリテイク, 政治報道に特化したアメリカのニュースメディア.

sobering 冷静な.  
 assessment 評価.  
 coverage 報道.  
 Brookings Institution ブルッキングス研究所. アメリカのシンクタンク.  
 resonate 響く.  
 Hannah Arendt ハンナ・アーレント. 第二次大戦中にアメリカに亡命したドイツ出身の政治哲学者.  
 presciently 先見の明で.  
 impaired 損なわれた.  
 Ronald Reagan ロナルド・レーガン. アメリカの第40代大統領(1981-89年).  
 tall tale ほら話.  
 conflate 合成する.  
 conjunction 結合.  
 unconstrained 拘束されない.  
 silo 蓄える.  
 partisan 党派性の強い.  
 echo chamber 残響室. ここでは比喩的に, 単一の考えが増幅・強化される閉鎖的な状況を指す.  
 pollute 汚染する.

問1 オックスフォード・ディクショナリーズは, 2016年に“post-truth”という言葉  
 言葉を形容詞としてどのように定義したか。[A]の文章に即して60字以内  
 で答えなさい。(10点)

問2 オックスフォード・ディクショナリーズが“post-truth”という言葉  
 を, 2016年の「今年の言葉」に選出したのはなぜか。[A]の文章に即して60字以  
 内で説明しなさい。(10点)

問3 下線部(1)はどのようなことか。[A]の文章に即して, 120字以内で説明しな  
 さい。(20点)

問4 下線部(2)を日本語に訳しなさい。(20点)

問5 下線部(3)はどのようなことか。[B]の文章をふまえ, 具体例も交えながら  
 120字以内で説明しなさい。(20点)

※解答欄への記入に際しては, アルファベットは1マスに2文字を入れて示すこ  
 と。

例: “p os t- tr ut h” と い う 、

Ⅱ メッセージのやりとりには、誤解の発生がつきものである。そうした誤解の原因について、以下の文章では「言語自体が持っている限界」という点から論じられている。文章を読み、問1と問2に答えなさい。(配点70点)

西成活裕『誤解学』(新潮社, 2014年)106~108ページより抜粋。一部改変あり。

問1 下線部について、なぜ筆者は小説家が廃業してしまうと考えているのだろうか。100字以内で説明しなさい。(20点)

問2 コミュニケーションにおいて発生する誤解には、表現手段である「自然言語」の限界がどのように関わっているだろうか。本文中にある「感覚的な表現」・「語感」・「外延」という3つの観点から、200字以内で説明しなさい。(50点)



Ⅲ 次の文章と図表を読み、問1と問2に答えなさい。(配点70点)

高校生による野球の競技人気は近年、低下傾向にあるようだ。たとえば、日本高校野球連盟のデータによると少子化を背景に高校生の野球部員数は4年連続で減少している。また、同連盟に加盟する全国3,957校を対象におこなった調査によると、サッカー、バスケットボールなど他の競技が野球人気を上回ると思うかという問いに対して、「既にも上回っている」30.2%、「上回る可能性がある」43.7%で合算すると70%を超え、また、それぞれ5年前の前回調査よりも10ポイント以上上昇し、現場では危機感が広がっているという(『日本経済新聞』2018年6月16日、6月29日)。

他方、高校野球の観戦人気は近年、高まっているという。毎年春と夏に開催される全国大会(以下、甲子園大会)は長年、テレビで全試合が生中継されてきたが、地方予選についても地方局が番組で熱心に特集し、試合を生中継している。高校野球はまさに「メディア・イベント」の様相を呈している。また、甲子園大会の来場者数は増加傾向で、来場の混雑緩和のために無料だった外野席を有料化するなどの措置がとられるようになったという(『朝日新聞 DIGITAL』2018年1月24日\*など)。好天続き、選手たちのひたむきなプレー、強豪校同士の好ゲーム、将来を嘱望される優秀な選手の登場など多様な要因が背景にあるようだ。

\*<https://www.asahi.com/articles/ASL1S4CD4L1SPTQP006.html>

高校野球、とりわけ、甲子園大会の観戦人気の高さは、社会調査のデータからもうかがえる。たとえば、2006年、2016年に長野県の20歳以上80歳未満の男女有権者を対象に無作為に標本抽出して実施した調査では、「あなたは、高校野球の甲子園大会で長野県代表校の試合をテレビ中継で、観戦したいと思うか、それとも観戦したいと思わないか」という質問文に対して、「観たいと思う」「やや観たいと思う」「あまり観たいと思わない」「観たいと思わない」という4つの選択肢を用いてデータを収集している(公益財団法人八十二文化財団『長野県の郷土と文化——第4回(2016年)調査報告』)。



図表 1 調査年別集計結果

長野県代表校の試合 テレビ観戦意識	人数		割合	
	2016	2006	2016	2006
観たいと思う	890	669	53.1%	(A)
やや観たいと思う	421	807	25.1%	36.7%
あまり観たいと思わない	211	431	12.6%	(B)
観たいと思わない	153	293	9.1%	13.3%

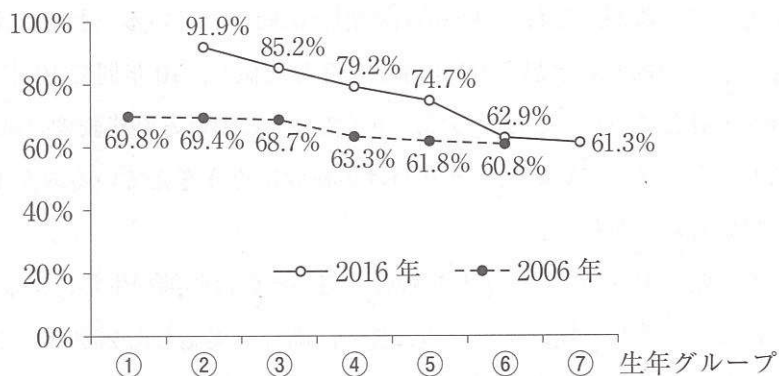
同調査の集計結果を示した図表 1 を見ると、第一に、2006 年、2016 年ともに「観たいと思う」「やや観たいと思う」の割合を合算した値は 60% 以上であり、甲子園大会における県代表校の試合のテレビ観戦人気が一貫して高いことがわかる。第二に、2006 年から 2016 年までの 10 年間で「観たいと思う」の割合が大幅に上昇しているが、それ以外の項目の割合は低下している。とはいえ、「観たいと思う」「やや観たいと思う」の割合を合算した値も、10 年間で 10 ポイント以上割合が上昇している。したがって、甲子園大会における県代表校の試合をテレビ観戦したいと考えている人、とりわけ積極的にそう考えている人が 10 年間で増加していることがわかる。

だが、県代表校の試合のテレビ観戦人気の特徴は年齢や生年によって異なるかもしれない。これを検討するためにまず、調査を実施した 2006 年、2016 年時の調査対象者の生年を 10 年ごとにグループ化し、また、両調査時の年齢層を図表 2 に示した。次に、各調査年別に各生年グループによる県代表校の試合のテレビ観戦意識、正確には「観たいと思う」「やや観たいと思う」の割合を合算した値を図表 3 に示した。

図表2 2006年・2016年調査時における調査対象者の年齢層・生年グループ

年齢層		生年グループ
2016	2006	
80代*	70代	① 1927～1936
70代	60代	② 1937～1946
60代	50代	③ 1947～1956
50代	40代	④ 1957～1966
40代	30代	⑤ 1967～1976
30代	20代	⑥ 1977～1986
20代	10代*	⑦ 1987～1996

(注) ただし、網掛け\*は調査対象外。



(注) ①～⑦は図表2の生年グループをあらわす。グラフ内の値は「観たいと思う」「やや観たいと思う」の割合を合算した値。ただし、データの一部を修正。

図表3 生年グループ別の集計結果 (2006年・2016年調査)

さて、ここまで見てきたように、高校野球人気は一様ではなく、観戦人気と競技人気とは傾向が逆であることがマスコミ報道と調査からうかがえた。また、長野県で実施した社会調査によると、県代表校の試合をテレビ観戦したいと考える人は近年増加していた。もっとも、本調査の結果は長野県という1つの県を対象としたものである。そのため、政令市など大都市を有する都道府県の場合は長野県の場合とは異なる調査結果となる可能性は否定できない。以上のことから、

社会や文化に関する現象を正確に理解するには、何に焦点を当てるかによってその様相が異なりうること、同一の調査方法を用いたとしても、地域によって調査結果が異なりうることに注意する必要があるだろう。

問1 図表1の(A)(B)に入る数字を記入しなさい。ただし、端数が生じたら小数点第2位を四捨五入して処理すること。(10点：A、Bは各5点)

問2 図表3によると、2006年と2016年の線はどの年齢層も60%以上であり、テレビ観戦したいと考える人が総じて多いという傾向が見られる。しかし、詳細に図表3を観察すると、テレビ観戦に関してその他にもいくつかの傾向が読み取れる。どのような傾向が読み取れるかを、図表2も参照して250字以内で説明しなさい。(60点)

Ⅳ Ⅰ に示された “post-truth” 時代の言論に対してわたしたちはどのように向き合っていく必要があるだろうか。Ⅱ に示された自然言語における曖昧さおよび多義性の問題、Ⅲ に示された報道における焦点の当て方および統計データの扱い方の問題もふまえて、あなたの考えを 500 字以内で述べなさい。(配点 80 点)